

3・4月度「京都学ラウンジ ミニ講座」（開催報告）

平成31年4月26日
京 都 学 ・ 歴 彩 館
075-723-4835

京都学・歴彩館では、京都について学ぶ楽しみを広げる目的で、毎週木曜日に「京都学ラウンジ ミニ講座」を開催しております。この度、3月7日（木）～4月25日（木）にかけて6回開催しましたので、下記のとおり報告します。

記

- 日 時 平成31年 3月7日・28日、4月4日・11日・18日・25日
いずれも木曜日 13：30～14：00
- 会 場 京都府立京都学・歴彩館 京都学ラウンジ
- 参加者数 38名（3月7日）、38名（3月28日）、42名（4月4日）、
39名（4月11日）、37名（4月18日）、35名（4月25日）
合計 229 名
- 内 容
講師 京都府立京都学・歴彩館 副館長 平井 俊行
「江戸時代の禅宗寺院の世界―妙心寺本山建築から見た近世―」（全6回）
第1回 江戸時代の妙心寺 第2回 禅寺の浴室は誰が利用したの？
第3回 庫裏は巨大な厨房？ 第4回 方丈建築とは何？
第5回 公式な入口としての山門 第6回 中心伽藍としての法堂と仏殿
レジュメを配付するとともにパワーポイントを使って説明。

■ 講座の様子

京都市右京区花園に所在する禅宗本山寺院妙心寺の境内を歩いたことがある人は多いだろう。現代においても広大な境内を持つ妙心寺ではあるが、開山当初から現在と同じ姿をみせていたわけではない。寺院を構成する建物は、寺院で行われる仏教法会や寺に住み込み仏教教学の研鑽に励む僧侶の活動と密接に関わって建てられている。今回のミニ講座では、妙心寺の見学だけでは分からない、江戸時代の禅宗寺院の世界について講義した。江戸時代の妙心寺の運営がどのようになされていたのかを説明した上で、各建物がどのような理由から建てられたのか、そしてどの様に使われたのかを分かりやすく説明した。各回、多くの参加者を得て、好評を得た。

